

土浦市地球温暖化防止 行動計画（改訂版）

【概要版】

水と緑 人と人の『環』でつくる低炭素都市を目指して

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加により、地球規模で温暖化が進んでいます。温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素は、化石燃料の消費などに伴い発生するものであり、地球温暖化問題は私たち一人ひとりの日常の生活や事業活動が原因となっています。

我が国では、平成23年の東日本大震災の結果、相次ぐ原子力発電所の運転停止により、電力需給の問題の顕在化に加え、火力発電所での化石燃料の消費量の増加により、日常の生活や事業活動等で使用する電力料金が値上がりするなど、私たちの生活とエネルギーを取り巻く状況は新たな局面を迎えています。

こうしたエネルギーを取り巻く状況や社会情勢、環境の変化、最新の知見等を踏まえた上で、今回「土浦市地球温暖化防止行動計画」の見直しを行いました。

私たちが現在享受している豊かで快適な生活を維持しながら、今後も持続可能な社会を実現していくためには、低炭素社会の構築に向けて現在のライフスタイルやビジネススタイルを変革していかなければなりません。

私たちのまち・土浦の自然・歴史・文化をはじめ、豊かな環境を次の世代へと引き継いでいくため、私たちは今何ができるのかを真剣に考え、地球温暖化防止の取組の第一歩を踏み出しましょう。

計画期間 2015～2019年度（平成27～31年度）

※5年間の計画です。

中期目標 2020年度（平成32年度）

長期目標 2050年度（平成62年度）

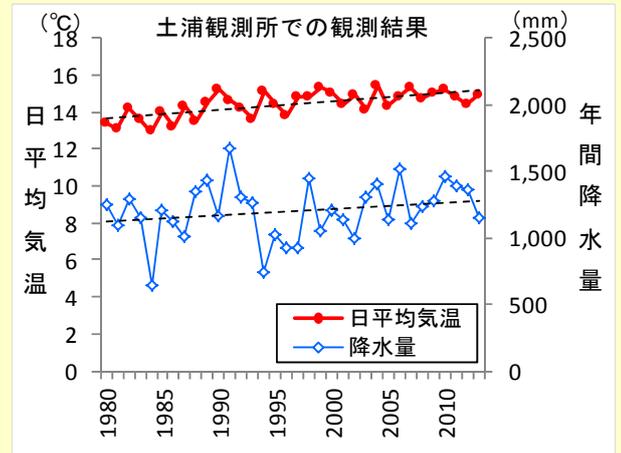


土浦市地球温暖化防止
シンボルキャラクター
「つーちゃん」

地球温暖化の現状

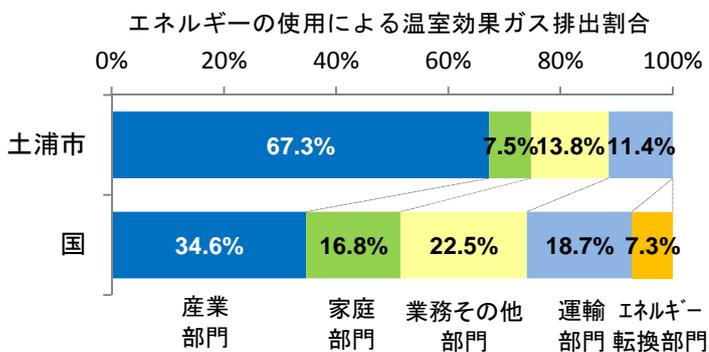
世界各地から地球温暖化が原因と考えられる気象の変化（台風の大型化、降雨の変化など）、生物の生息域の変化、農産物の品質低下などが報告されています。

土浦市でも日平均気温は明らかな上昇傾向を示しています。年間降水量も上昇傾向で推移しており、近年では1日の最大降水量が100mm以上となるケースが増えています。このままの状態推移した場合、市民の生活や農業への影響などが懸念されます。



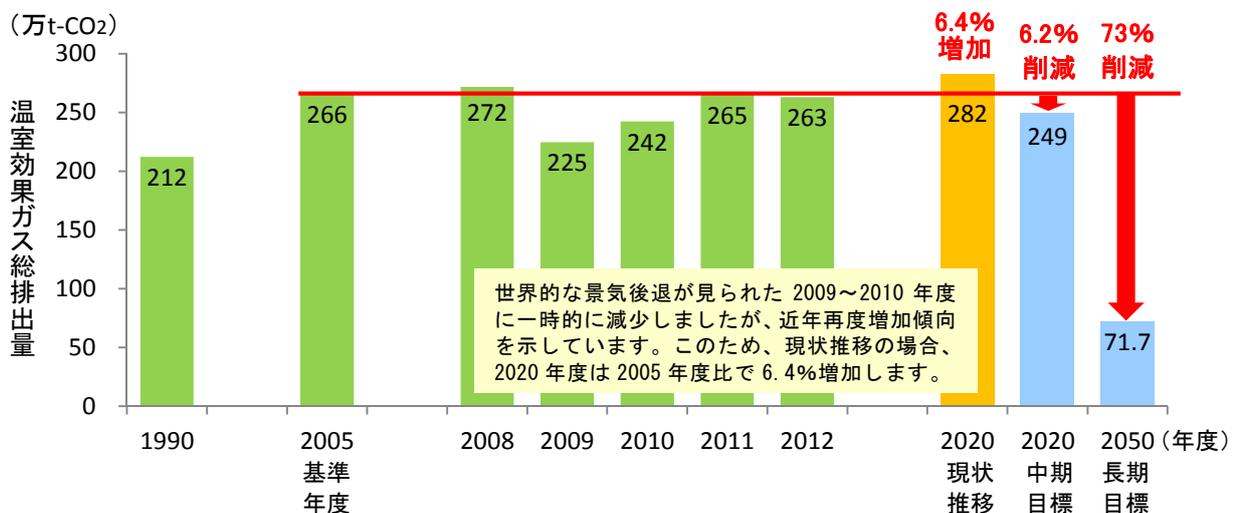
土浦市の温室効果ガスの排出量の現状と削減目標

土浦市から排出されている温室効果ガスのほとんど（98%以上）は、家庭やオフィス、工場や店舗などで、電気や石油、ガスなどのエネルギーの使用によって発生する二酸化炭素です。



部門	主な発生源
産業部門	農林水産業、鉱業、建設業、製造業でのエネルギーの消費による発生
家庭部門	家庭でのエネルギーの消費による発生
業務その他部門	オフィスや店舗などでのエネルギーの消費による発生
運輸部門	自動車でのエネルギーの消費による発生
エネルギー転換部門	発電所等でのエネルギーの消費による発生（土浦市は該当なし）

何も対策を行わなかった場合（現状推移の場合）、2020年度の土浦市の温室効果ガス総排出量は、2005年度（基準年度）から6.4%増加すると推測されました。このため、土浦市では地球温暖化防止に向けて温室効果ガスの削減目標（中期目標と長期目標）を設定し、この目標の実現に向けて市民・事業者・行政が協働して各種の取組を進めていきます。



中期目標

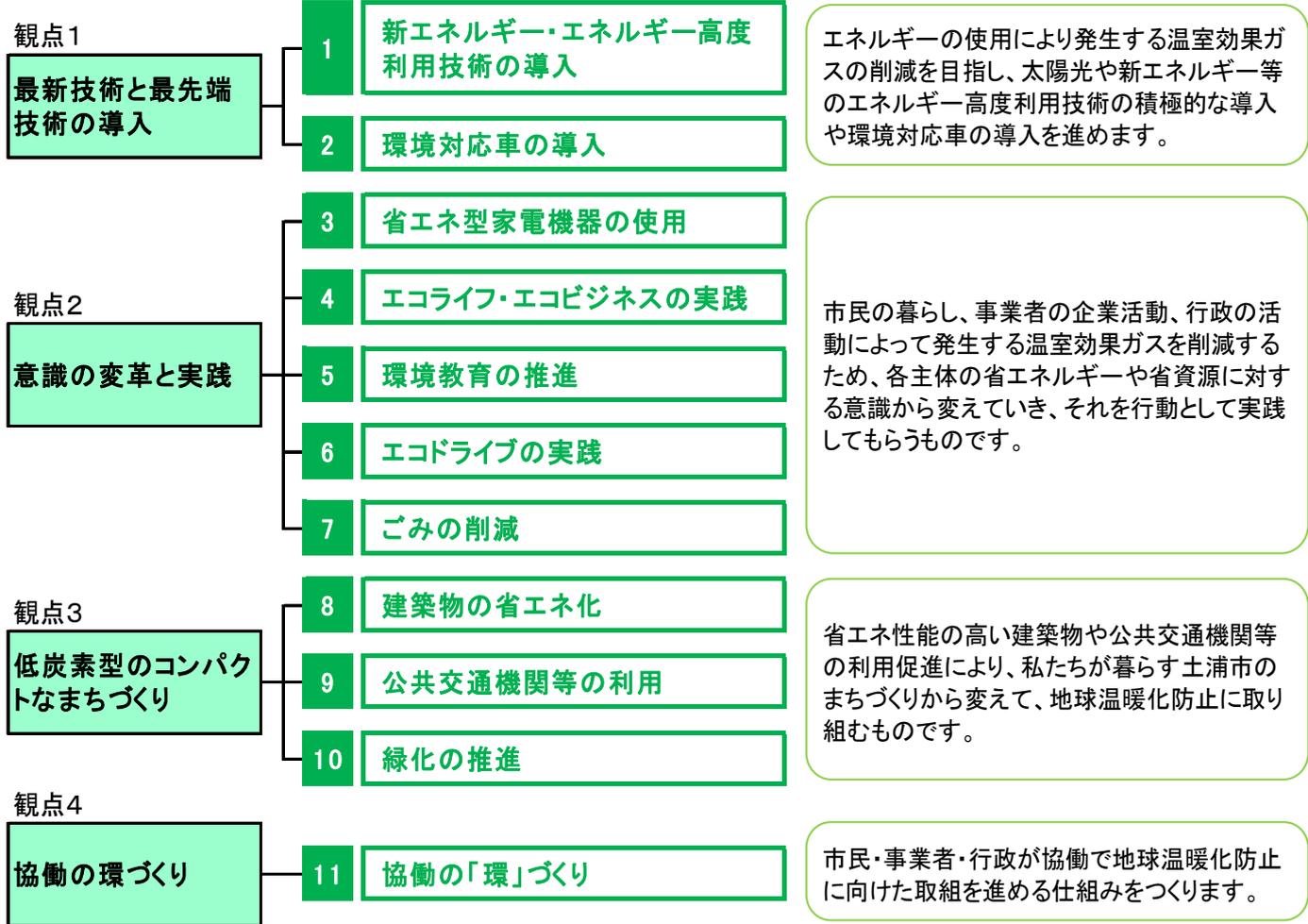
2020年度における温室効果ガスの排出量を
2005年度比で**6.2% (17万トン) 削減**します。

長期目標

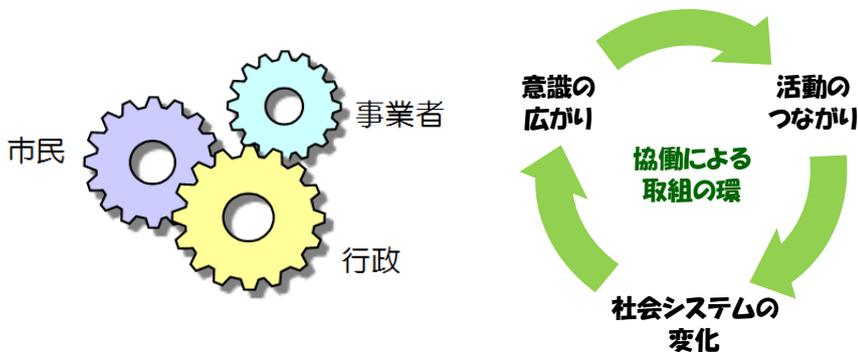
2050年度における温室効果ガスの排出量を
2005年度比で**73% (194万トン) 削減**します。

土浦市の地球温暖化防止に向けた取組

温室効果ガスの排出削減は、市民や事業者及び行政のそれぞれの主体が、役割と責任を認識し、行動につなげていかねばなりません。土浦市は、4つの観点から地球温暖化防止に向けた取組を推進・展開していきます。



地球温暖化防止の取組のイメージ



主体間のネットワークの形成

活動の実施主体（市民・事業者・行政）が連携・協働して取り組むことにより、大きな効果が得られます。

協働による取組の環

市民や事業者の個々の意識の変化は、具体的な活動となってやがて地域全体に浸透・拡大していきます。



市民・事業者・行政が一体となって地球温暖化防止に取り組むことで、環境への負荷を抑えた「低炭素都市」の実現を目指します。

地球温暖化防止に向けた市民の取組

地球温暖化問題は、私たちの日常の生活が原因となっていることを認識し、市民一人ひとりが省エネルギー行動などを実践することが大切です。

1

新エネルギー・エネルギー高度利用技術の導入

- ・太陽光・太陽熱を利用する設備の設置を検討しましょう。

太陽光発電1kW 当たり年間約297kgのCO₂を削減



2

環境対応車の導入

- ・クリーンエネルギー自動車の導入を検討しましょう。

クリーンエネルギー自動車1台当たり年間1.3tのCO₂を削減



3

省エネ型家電機器の使用

- ・エコ家電など省エネ性能の高い家電を購入しましょう。

新型機器の省エネ効果: 冷蔵庫は約65%、液晶TVは約55%削減



4

エコライフ・エコビジネスの実践

- ・家庭エコ診断制度を活用し、省エネの取組を推進しましょう。
- ・エアコンは適度な温度に設定しましょう。

エアコンの温度設定による効果
冷房 28°C: 年間 10.6kg の CO₂ 削減
暖房 20°C: 年間 18.6kg の CO₂ 削減



5

環境教育の推進

- ・清掃活動や集団回収などの地域の環境保全活動や環境学習活動に積極的に参加し、活動の輪を広げましょう。



6

エコドライブの実践

- ・急発進をしない、アイドリングストップなどエコドライブの実践に努めましょう。

アイドリングストップにより自動車1台当たり年間210kgのCO₂を削減



7

ごみの削減

- ・ごみ出しマナーやルールを守り、適正にごみ出しをしましょう。

プラ製容器包装の分別収集により焼却時のCO₂を約5%削減



8

建築物の省エネ化

- ・エコリフォームにより住宅の断熱性能を向上させましょう。

断熱改修の省エネ効果(戸建) 冷暖房負荷の43%削減



9

公共交通機関等の利用

- ・マイカーの利用から公共交通機関の利用へ転換しましょう。

週2日往復8kmの車の運転をやめことで年間185kgのCO₂を削減



10

緑化の推進

- ・アサガオやゴーヤなどによるグリーンカーテンを設置し、夏季の空調負荷の低減を図りましょう。
- ・沿道植栽や地域の花壇の緑化活動に参加しましょう。



11

協働の「環」づくり

- ・地球温暖化対策を推進するための取組に積極的に参加・協力しましょう。

